

黒潮大蛇行の終息について

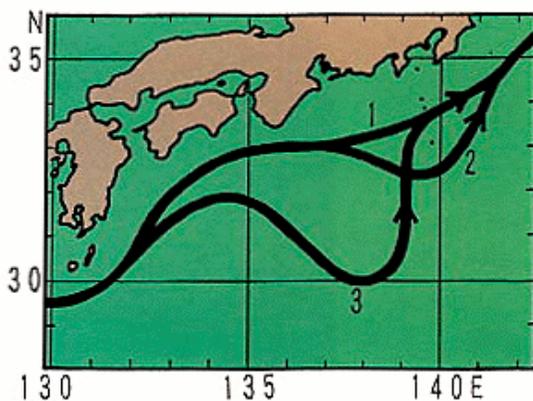
2004年7月に発生した黒潮大蛇行は2005年8月に終息しました。

本州南方の黒潮は、2004年7月に東海沖で大きく離岸する大蛇行流路となつて以来、東海沖を北緯32度より南まで蛇行する状態が続いていましたが、2005年6月ごろから、蛇行部が八丈島の東に移動するとともに蛇行の振幅が小さくなり、8月中旬に非大蛇行流路に移行しました。

現在、黒潮は、潮岬に接岸した後、東海沖を東南東に流れ、御前崎の南方約220kmに達した後、東北東に向きを変え、八丈島付近を通過する非大蛇行流路で流れています(別紙1)。

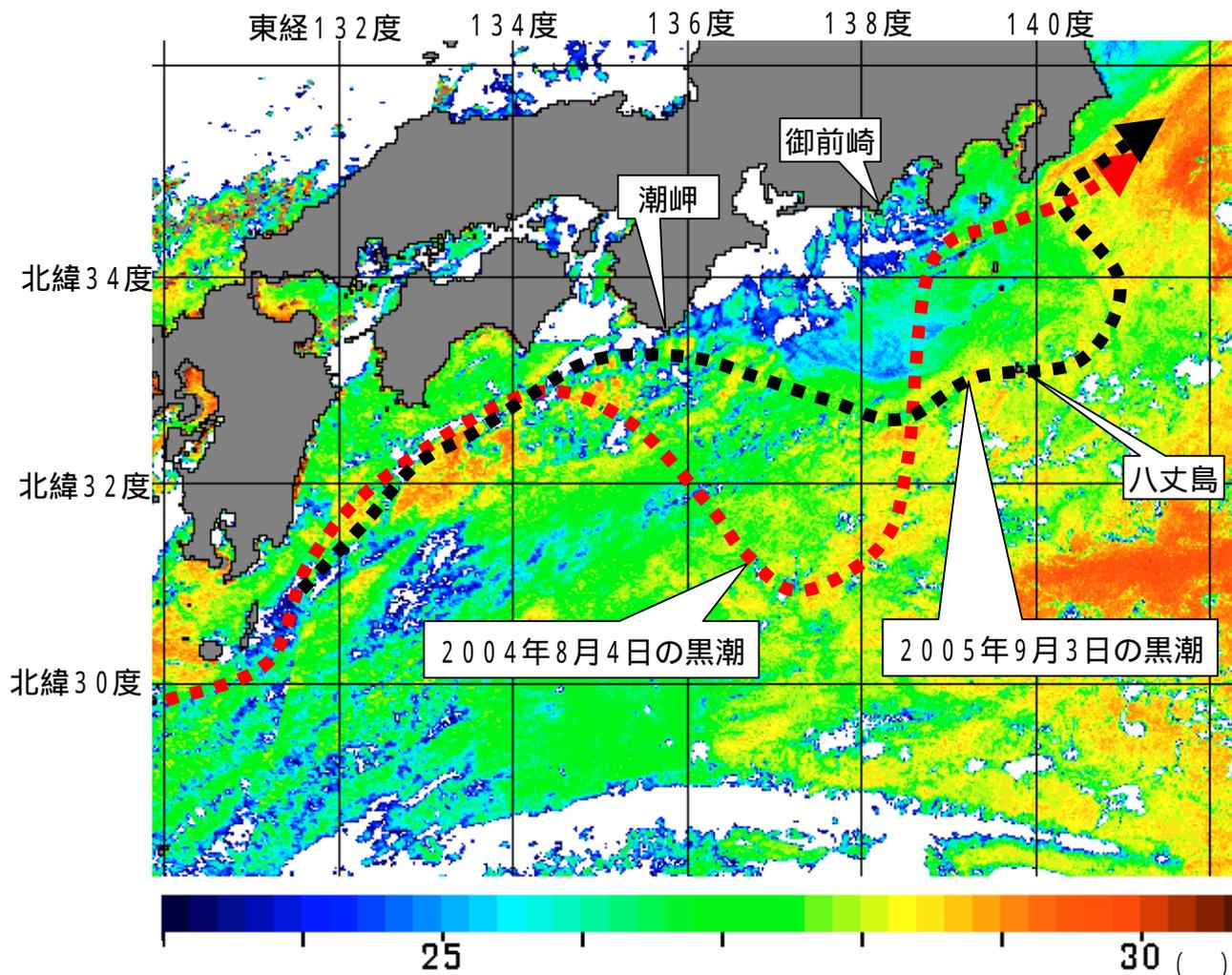
海洋大循環モデルによる海流の数値予測結果(別紙2)及び過去の類似した事例の経緯から総合的に判断すると、今後短期間で大蛇行流路にもどる可能性は小さく、今回の黒潮大蛇行は2005年8月に終息したと判断されます。

今回の大蛇行期間中、黒潮大蛇行が原因と考えられる海面水位の上昇が紀伊半島東岸から東海地方で観測されました。また、静岡県近海のシラスの不漁や、三重県、和歌山県近海のカツオの不漁など漁業への影響が生じました。



黒潮の代表的な流路

1. 非大蛇行接岸流路
2. 非大蛇行離岸流路
3. 典型的な大蛇行流路

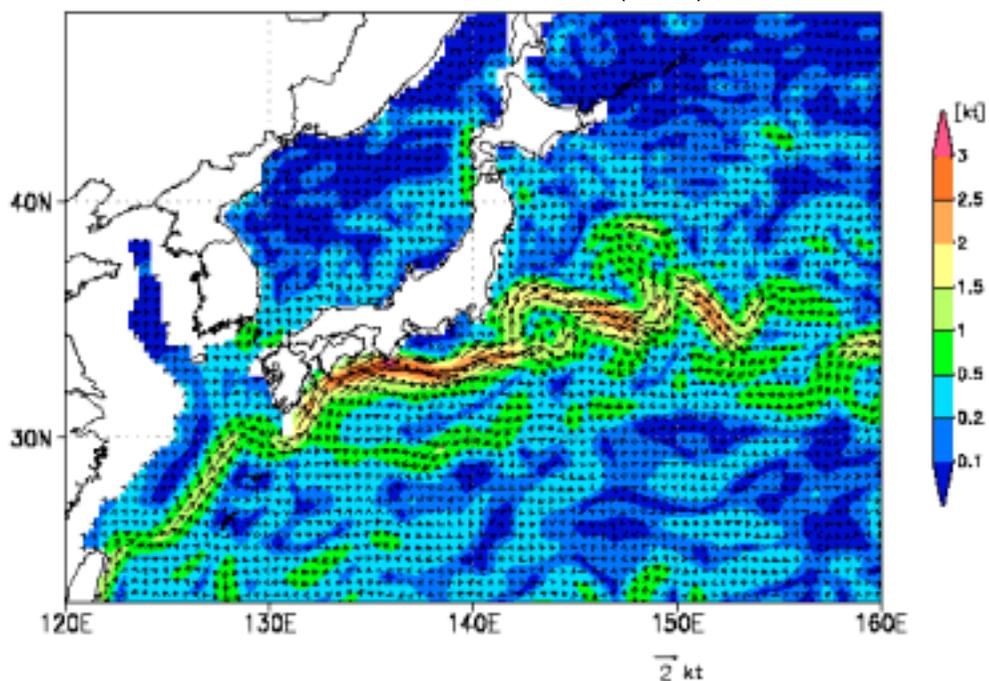


人工衛星がとらえた9月3日現在の日本付近の海面水温分布と黒潮

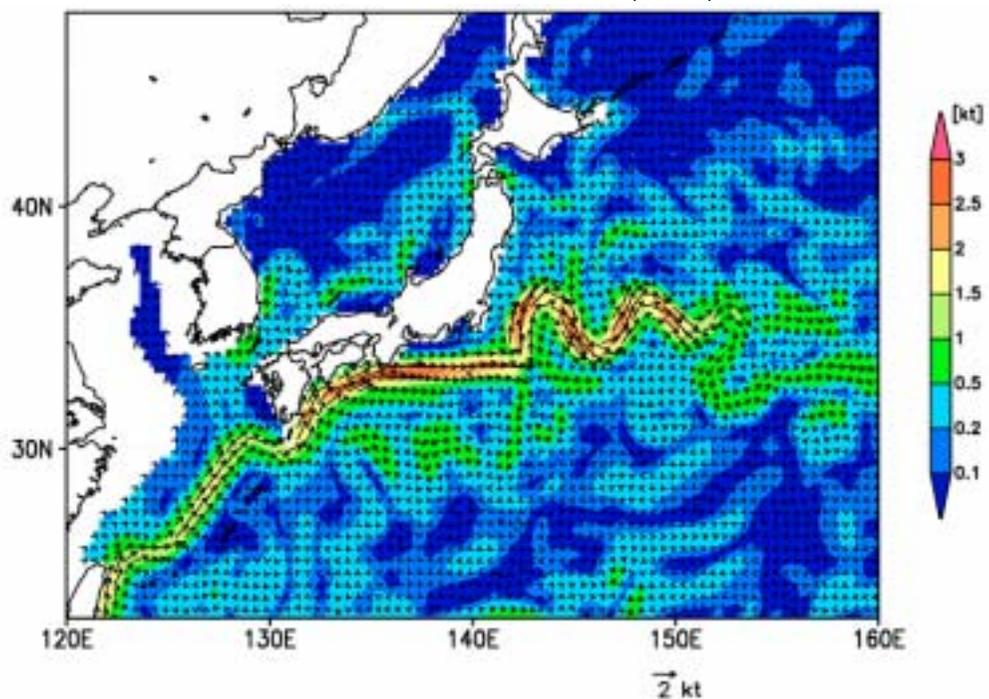
米国海洋大気庁運用の極軌道衛星NOAAの画像をもとに、気象衛星センターが解析した本州南方海域の海面水温画像。黄色で示された海域は水温約28の高水温域です。黒い破線は2005年9月3日の、赤い破線は典型的な大蛇行流路であった2004年8月4日の黒潮流路をそれぞれ示します。

海洋大循環モデルによる海流の実況解析及び予測

2005年9月上旬の海流分布(実況)

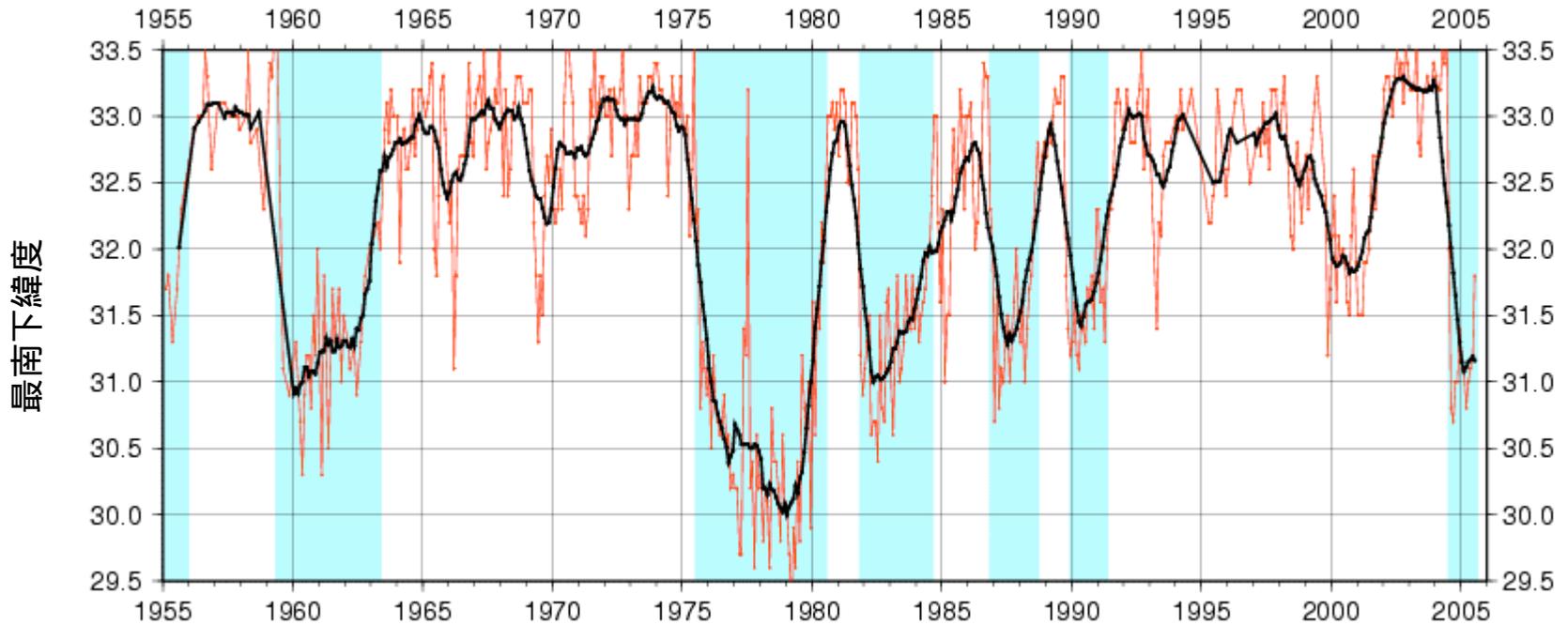


2005年10月下旬の海流分布(予測)



海流の向きを矢印で示し、海流の強さを矢印の長さ及び色で示しています。日本の南で、流れの強くなっているところが、黒潮の位置です。

潮岬より東の日本の南方海域における黒潮の最南下位置の緯度の推移



赤線は月毎の黒潮の最南下位置、黒線はその13か月移動平均を示しています。水色で着色した期間は大蛇行期間を示しています。